

# 令和7年度事業報告書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

特定非営利活動法人よみたん自然学校

## 1 事業の成果

近年、文部科学省においても「学校内外における多様な学び」の重要性が示される中、フリースクール「小学部」への入学問い合わせや相談が引き続き多い一年となった。単に「学校に行けない子どもの受け皿」としてではなく、一人ひとりの育ちに合わせた居場所や、地域とのつながりを重視した学びの場を求める人が増えていることを実感した。

そのような中、自然体験活動等の企画及び実施事業を中心に、キャンプ事業や村内ホテルと協力した観光プログラムの実施など、多様な事業展開を進めた。特に、日帰り型や親子参加型プログラムなど、新たな層に向けた事業も実施した。ちんすこうづくり体験については、参加者数が大幅に増加したことにより収益増となった。しかしながら、人件費や物価高騰の影響は大きく、事業収益のみで安定的な運営基盤を構築する難しさも改めて浮き彫りとなった。

人材育成事業では、セブンイレブン記念財団の環境市民活動助成 NPO 基盤強化助成金を活用し、「2校目設立」に向けた取り組みを令和6年度より進めてきた。2カ年目となる令和7年度は、2校目のマネージャーとなる人材が参考にできる冊子（マネージャー読本）を作成するため、ワークショップ型のスタッフ研修を8回実施した。普及啓発事業では、令和6年度から継続して海原風景ツアーを主管したことや、イオンチアーズを実施したことにより収益増となった。調査研究事業では、卒業生を対象に調査を行い、自然教育の中で育まれてきた力について論文を発表した。

令和7年度中には、過去に学校へ通っていた子の家族や、長年活動を応援してくださっている方々から多くのご寄付をいただいた。これまで積み重ねてきた教育実践や地域との関係性が、具体的な支援という形で表れ、法人運営を支える大きな力となった。こうした支援の広がりにより、法人としての存在意義を再確認するとともに、財政基盤を整えることができた一年となった。

社会全体で子どもの学びや育ちの多様性が求められる中、地域に根ざした小規模な学びの場や自然体験活動の役割は、今後さらに重要になっていくものと考えている。引き続き経営体制の強化を進めるとともに、これまで培ってきた教育実践や地域とのつながりを次世代へ継承しながら、多様な子どもたちの学びと育ちを支える場づくりに取り組んでいきたい。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者 の人数	受益対象者の 範囲及び人数	事業費の 金額 (千円)
自然体験活動 等の企画及び 実施事業	豊かな自然環境の中での びのびと過ごし、自然や 人との関わりを通して、 自分らしく生き抜く力と 優しさを持った自立心を 育む場、3年保育「幼児 学校」事業。	通年	よみたん 自然学校 及びその 周辺	10人	幼児 20人	30,932
	学びたいと思う子どもた ちの気持ちや主体性を尊 重し、その子自身のペー スで学び成長する場、フ リースクール「小学部」 事業。	通年	よみたん 自然学校 及びその 周辺	10人	小学生 27人	
	かまどでご飯を炊き、海 で遊び、テントを張って 泊まる。自然体験活動や 環境教育のねらいをコー スごとに設定した宿泊& 日帰りキャンプ事業。	通年	よみたん 自然学校 及びその 周辺	20人	子どもから 大人まで のべ85人	
	琉球伝統銘菓ちんすこう づくり体験。ガスオーブ ンで焼くお手軽コースと 石窯で焼く本格コース。	通年	よみたん 自然学校	4人	観光客 829人	
人材育成事業	自然体験活動指導者養成 、学生ボランティア養成 、実習生の受け入れ等の 指導者養成事業。	通年	よみたん 自然学校 及び 全国各地	5人	大人、学生 のべ31人	425
普及啓発事業	当法人主催のイベント、 講演会、勉強会、あるい は、NPO等同じ理念を持 つ団体等主催のイベント 、講演会、勉強会の講師 派遣など、持続可能な社 会につながる暮らしを普 及し啓発する事業。	通年	よみたん 自然学校 及び 全国各地	5人	広く一般	2,481

調査研究事業	主体性を育み、ジェンダーや障害など多様性を認め、自然環境を保全すること等、持続可能な社会づくりのための調査研究、学会発表、論文投稿等の事業。	通年	よみたん 自然学校 及び 関連学会	1人	広く一般	18
物品販売事業	活動を紹介し広報するための、Tシャツ等関連グッズの販売。	通年	よみたん 自然学校 及び 全国各地	3人	子どもから大人まで 75人	172